

交通まちづくりの計画手法 ー都市構造に関わる制度から考えるー

交通まちづくり SS 2012 計画学春大会 (at 京都大)

6月2日(土) 16:45~18:15 (時間帯 5) 第7会場 (共北 31)

進行概略 (90 分間 : 17:55 以降は討議予定)

(進行担当 : 谷口守)

1) あいさつ : <「交通まちづくりの実践研究小委員会」代表> 原田昇 (東京大) (5分)

研究グループ全体の構成、経緯、本日の位置づけ。

2) 本日の構成と進行予定 : <制度設計部会長> 谷口守 (筑波大) (3分)

交通まちづくりを底から支える都市の構造改善の必要性。本日の話題提供者の紹介。

3) 駐車場に係る制度を斬る : 大沢昌玄 (日本大)・中村文彦 (横浜国立大) (9分)

現在の交通まちづくりの成否に対し、実は駐車場をうまくマネージできるかどうかが多くを担っている。制度的切り口からその課題とあり方について話題提供をいただく。条例での具体的な対応案や、最新の調査研究を著作としてまとめられた経験から。

4) 都市集約化に係る制度を斬る : 森本章倫 (宇都宮大) (9分)

実は既にいろいろな制度があるが、その全容は良く知られていない。また、それらはどれだけ有効に機能しているといえるのだろうか。逆に、今ある制度は本当はどれだけ活用できるポテンシャルがあるのか。それらを踏まえ、制度という面でこれからどうすればよいのか。最新の計画学研究論文をベースに、論文には書けなかった部分なども適宜話題提供いただく。

5) 海外最新事情を斬る (フランス) : 松中亮治 (京都大) (9分)

3月末にフランスから帰国されたばかりであるため、その後の最新の交通まちづくりに関係するフランスの制度変化の情報提供を中心に話題提供いただく。環境グルネルに関する話題を軸に、国の政策の方向性なども含めた最新事情をどう見るか、議論の切り口をいただく。

6) 海外最新事情を斬る (イギリス) : 高見淳史 (東京大) (9分)

英国のアクセシビリティプランの発想と実際について、その解説をしていただく。その中で、ある意味伝統的な様相さえある PTAL 指標が現在今どのような扱いになっており、どのような点が参考にできるかなどについて示唆をいただく。

7) 公共交通サービス区域のあり方 : 喜多秀行 (神戸大) (9分)

JTPA REPORT の 87 号などに書かれている、都市空間の中で公共交通を優先的に提供する区域を設定する考え方について、海外では上記のように既に適用・紹介されてきたように思えるが、日本の制度としてどう受け得るか。制度的にどういうことをクリアしないと実現できないかについて主に論究いただく。

8) 制度づくりの現場から : 神田昌幸 (富山市副市長) (コメントの形で 9分)

氏は関連制度について国のお立場から精通し、景観法づくりの実績もあり、またコンパクトシティづくりの富山市の裏表もご存じである。一通り皆の話を聴いていただいて、残り時間も見ながら全体議論へ導入するいくつかの切り口をいただく。